

聖書日課 『からし種』 2023.4.23-4.30

| | |
|--|--|
| <p>4月23日 (日) II サム 6章</p> | <p>「主の御前でダビデは力のかぎり踊った」(14節)。荒れ野の旅を導いた「神の箱」は、「主、我らと共にあり！」の象徴であり、不思議な力を帯びていて、人間のコントロールの及ばないものだった。私たちは、主なる神を自分の願いの方向に導こうとする間違いを犯していないだろうか。ダビデは「神の箱」の前で喜び、踊るほかない自分の小ささを知らされたのだった。</p> |
| <p>24日 (月) II サム 7章</p> | <p>「(神は)御自分のために大きな御業を成し遂げ…御自分のために、エジプトおよび異邦の民とその神々から、この民を贖って下さいました」(23節)。預言者ナタンを通して、主のありあまる祝福の言葉を聞いたダビデは主の前に心低くさせられて祈りをささげた。小さくさせられたこの祈りをいつもささげられるかどうか。自分の「原点」を忘れることがないように。</p> |
| <p>25日 (火) II サム 8章</p> | <p>「主はダビデに、その行く先々で勝利を与えられた」(6節)。前章で「あなたの行く手から敵をことごとく絶つ」との主の約束の通り、ダビデは次々に周囲の敵を打ち破り、戦果をあげていった。しかしその「勝利」の時にこそ、悪魔のいざないの声がかき立てられ、ダビデの心を惑わせていったのである。目に見える「勝利」と信仰の「勝利」は常に衝突することを心に刻みたい。</p> |
| <p>26日 (水) II サム 9章</p> | <p>「恐れることはない。あなたの父ヨナタンのために、わたしはあなたに忠実を尽くそう」(7節)。ダビデは畏友ヨナタンとの約束(I サムエル 20 章)を忠実に守り、サウル家の生き残りであるメフィボシエトを厚遇した。時代や状況が変わっても主の前に交わした約束を守り続ける大切さを示される。わたしにとって、どんな状況でも守り続けるべき約束とは何だろうか。</p> |

聖書日課 『からし種』 2023.4.23-4.30

| | |
|---------------------------------------|---|
| <p>27日 (木)</p> <p>Ⅱサム 10章</p> | <p>「アラム軍は戦列を整えてダビデを迎え撃ち、戦ったが、彼らはイスラエルの前から逃げ去った」(17-18節)。読むのが嫌になるほどダビデは戦争を繰り返している。「敵が武器を手にして以上、戦わずして平和は保てない」という論理を主イエスは十字架において打ち破られた。しかし、この平和の福音がどれほど難しく、どれほど尊いかを知らされる。</p> |
| <p>28日 (金)</p> <p>Ⅱサム 11章</p> | <p>「しかし、ウリヤは王宮の入り口で主君の家臣と共に眠り、家に帰らなかった」(9節)。ウリヤの忠誠心の深さと同僚の家臣たちへの愛の深さの前に、王ダビデの心がどれだけ醜く歪み、卑劣であるかが浮き彫りになる。7章で「主の前に小さくさせられた祈り」という「原点」を忘れ去り、尊大になったダビデ。人間は主から力を託された時にこそ、その信仰が試される。</p> |
| <p>29日 (土)</p> <p>Ⅱサム 12章</p> | <p>「ナタンはダビデに向かって言った。『その男はあなただ』」(7節)。預言者ナタンは恐れることなく王ダビデの歪みと卑劣さを鋭く指摘して糾弾した。このナタンの存在なしにダビデは王を続けることはできなかったのである。愛なる神の厳しい指摘が私たちに正しい道に立ち帰らせる。聖書から、信仰の友から示される「愛の言葉」に心開いて聴く者であれるように。</p> |
| <p>30日 (日)</p> <p>Ⅱサム 13章</p> | <p>「どうか妹のタマルをよこしてください。目の前でレビボット(『心』という菓子)を二つ作らせませす」(6節)。レビボットと呼ばれている菓子は今でもイスラエルにあるようだが、この菓子の名に「心」の意味があることに、経緯を見つめられる主の静かな嘆き、叫びが聞こえるように思う。この日、まさに小さなタマルの「レビボット」は踏み散らされてしまったのである。</p> |